

研究背景・目的

新潟県燕市吉田町で育った私は、幼少期から参加していた天神祭や友人と自転車で遊びに出かける際にいつも気になっていた建物があった。香林堂と大きく書かれた煉瓦の建物はいつも少し不気味に見えていたが、それと同時にどのように使われているのか知りたいという興味もあった。今井家はこれまで長い間、個人で維持・管理を行ってきたため、地域の方々には屋敷の内部について全く知られていない。今井家は現在敷地内の建物 26 棟のうち 4 棟が登録有形文化財として登録されている。そのうちの一つである銀行店舗は大正 3 年に建てられた煉瓦造三階建ての建物である。かつては銀行、病院、薬工場として吉田地域の発展に貢献してきた。毎年開催される天神祭りは多くの人が集まり、今井家が多くの人の目に留まる。今井家は今後、重要文化財として指定される可能性のある建物である。文化遺産として受け継がれていくべき価値を有する今井家の保存・活用、これを初めとし、地元である吉田町の活性化ための力添えになりたいと思い、研究対象に定めた。本研究では、上記の先行研究では具体的に触れられていなかった、建造物を物理的にどのように保存管理していくかという点と、吉田の地域の遺産という観点からこれからどのように活用し整備していくかという点をまとめ、「保存活用計画」を作成し、この旧今井銀行店舗を地域の方々の活動の拠点となる場とするべく、検討する。建物の歴史や価値を多くの方々に知ってもらうことで、今後大切にすべき遺産であることを地域の方または地域外の方にも認識してもらい、今井家だけでなく地域の方々も交えて今後維持・保存していく体制を作る事とする。

旧今井銀行について



「銀行」と呼ばれるこの建物は、大正 9 年（1920）に今井家の私的な銀行として建てられる。当時の最高の素材と、最新の技術をもって造られた。銀行の機能が無くなった後も、病院や薬の工場など、時代ごとに様々な使われ方をしてきた。今井銀行（大正 9 年（1920）－昭和 7 年（1932）） 自家の小作人に貯蓄を義務付けており、その管理のために建てられた。最盛期には 3000 軒もの小作の財を預かっていた。古写真から、客溜と業務カウンターが吹き抜けであったこと、窓廻りにギャラリーがあったこと、鉄柵付のカウンターの存在が確認できる。昭和 7 年（1932）に、六十九銀行（現北越銀行）に買収され、銀行としての機能はなくなる。戦後 双葉病院（昭和 22 年（1947）－25 年（1950））建物の一・二階で病院を営む。戦前から今井家の書生であった前山氏が医師を務め、内科や耳鼻科など、7 科が入っていた。前山氏は、25 年以降、大保町の、今井家が経営を行っていた吉田病院に移った。このときに、入院患者のために病室を設ける。客溜と営業室の吹き抜けを区切り、2 階に 4 室の病室を設けた。香林堂製薬会社の第三工場（昭和 26 年（1951）から 50 年（1975）まで） 病院の後は、今井家が営んでいた香林堂製薬会社の第三工場として使用する。調剤のために、各部屋や廊下に、多くの薬棚を設けた。

リビングヘリテージについて

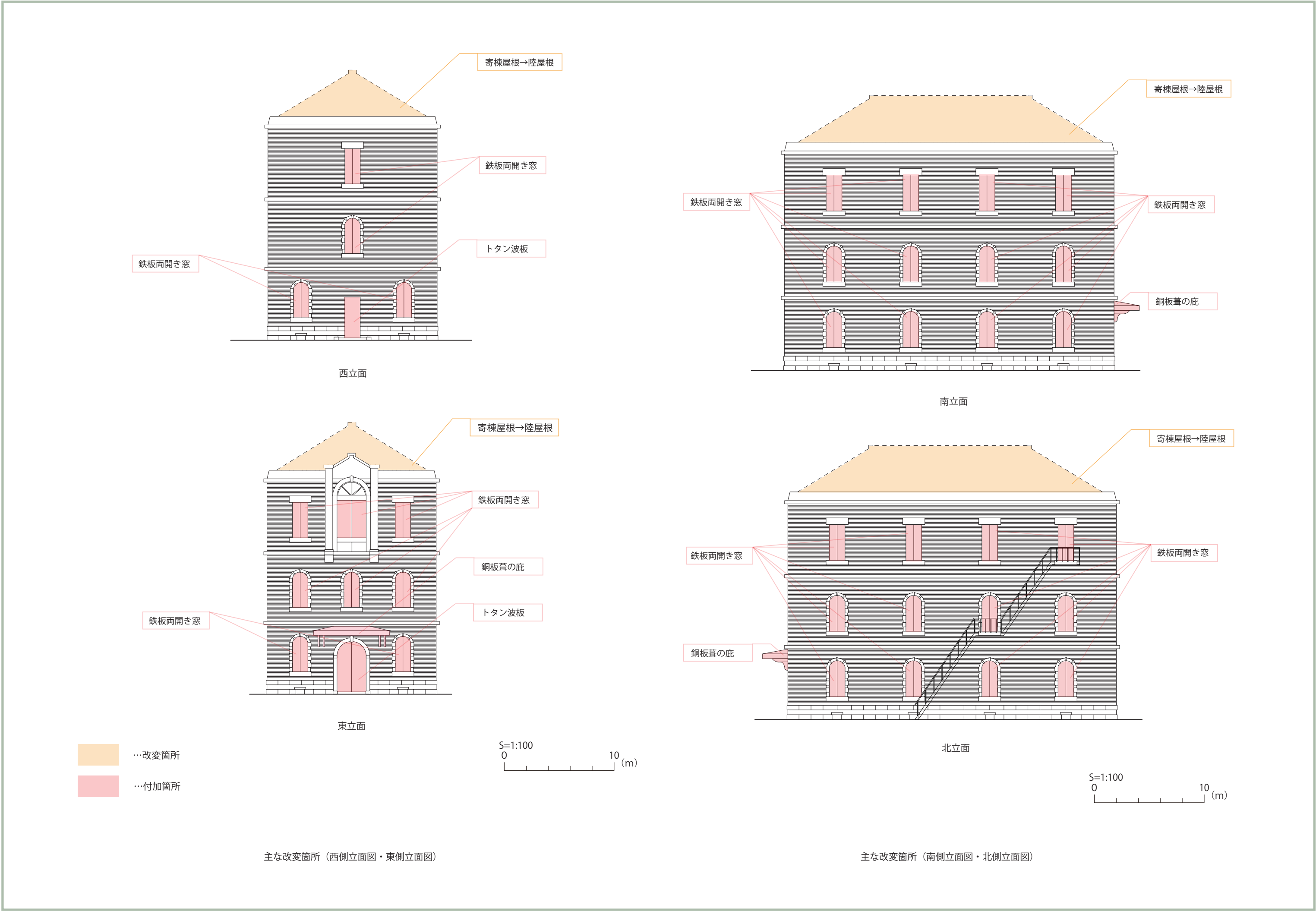
リビングヘリテージ（英：Living Heritage）とは、日本語で「生きている遺産」と訳されるもので、有形無形の“有効に活用されている文化遺産の総称。リビングヘリテージには以下のような種類がある。

1. 観光や学習教材として活用されている有形遺産（史跡・文化財）
2. 文字通り使われている稼働遺産
3. 継承・伝承されてきた先人の知識や技術（無形文化遺産・無形文化財）
4. 無意識に存在している文化的空間や文化的環境
5. 伝統的な生活環境・生活様式
6. 人の手が入ることで維持管理される里山のような自然環境（環境財）

日本では、古都保存法での「歴史的風土」、歴史まちづくり法での「歴史的風致」がリビングヘリテージの根拠と解釈され、文化財保護法を改正しての歴史文化保存活用区域制度が実現すればリビングヘリテージが本格化する。また、文化的景観の考え方を反映した文化財保護法での重要文化的景観の選定も行われている。

<https://ja.wikipedia.org/>

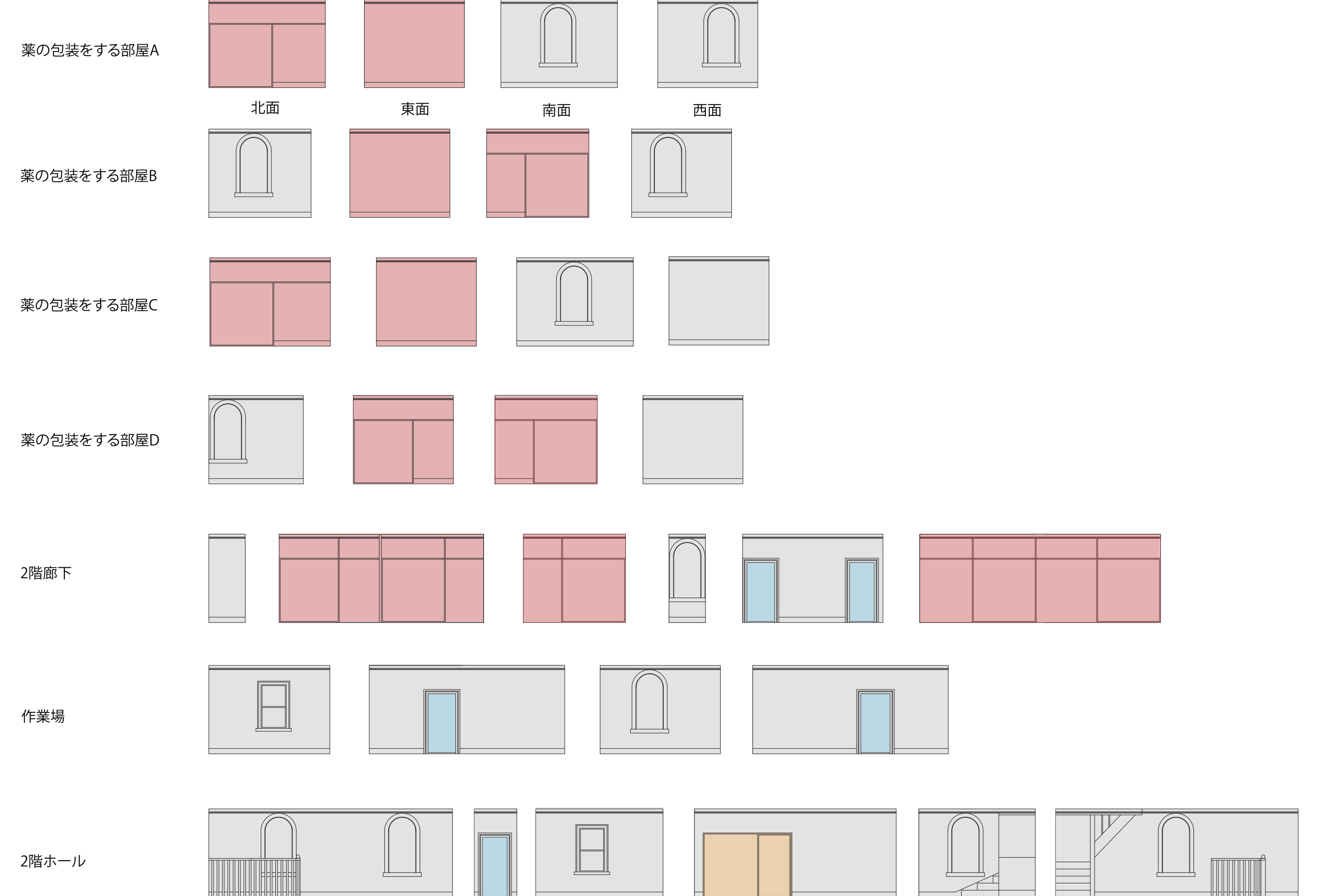
主な改変箇所 立面図



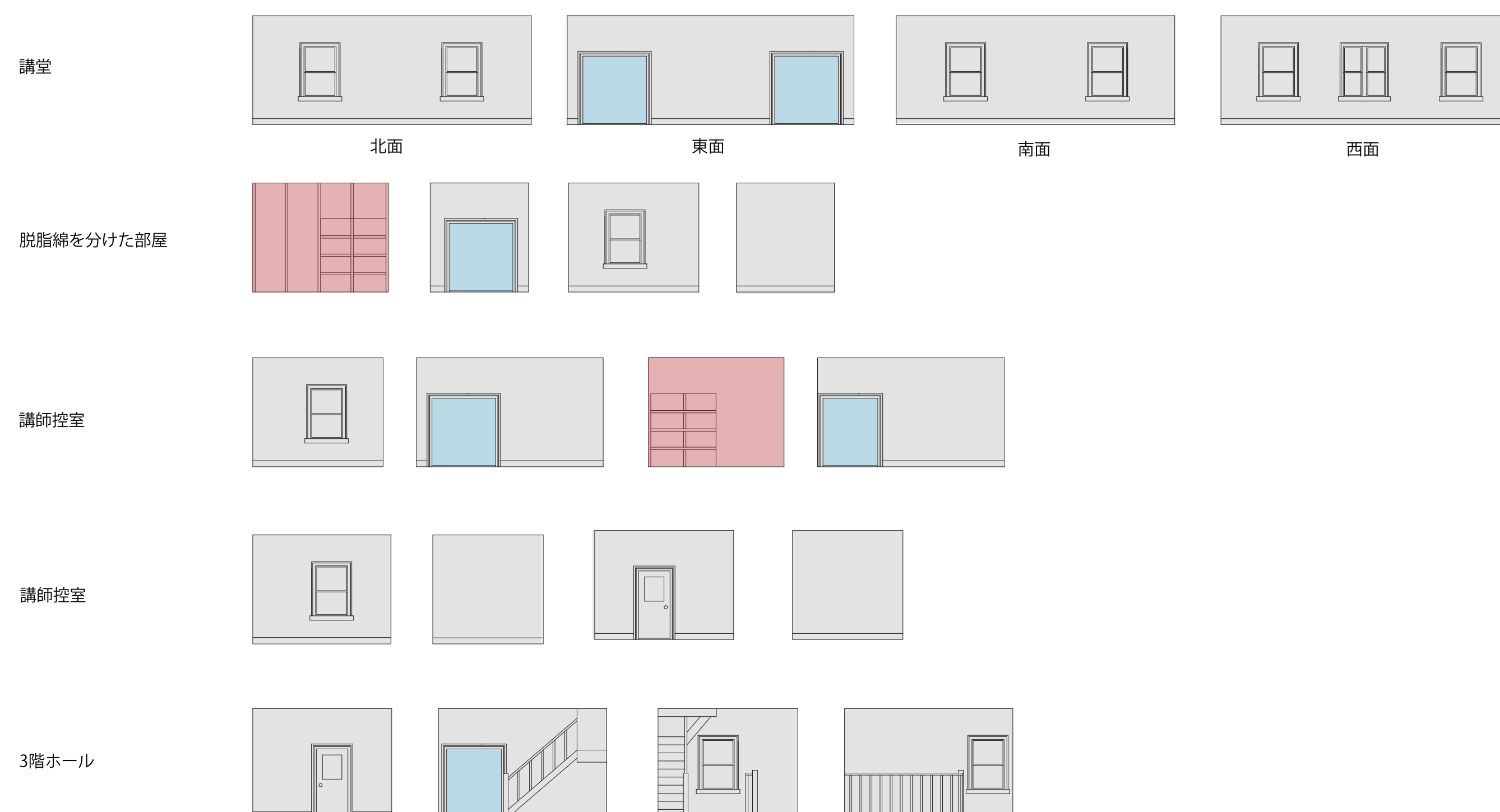
主な改変箇所 一階



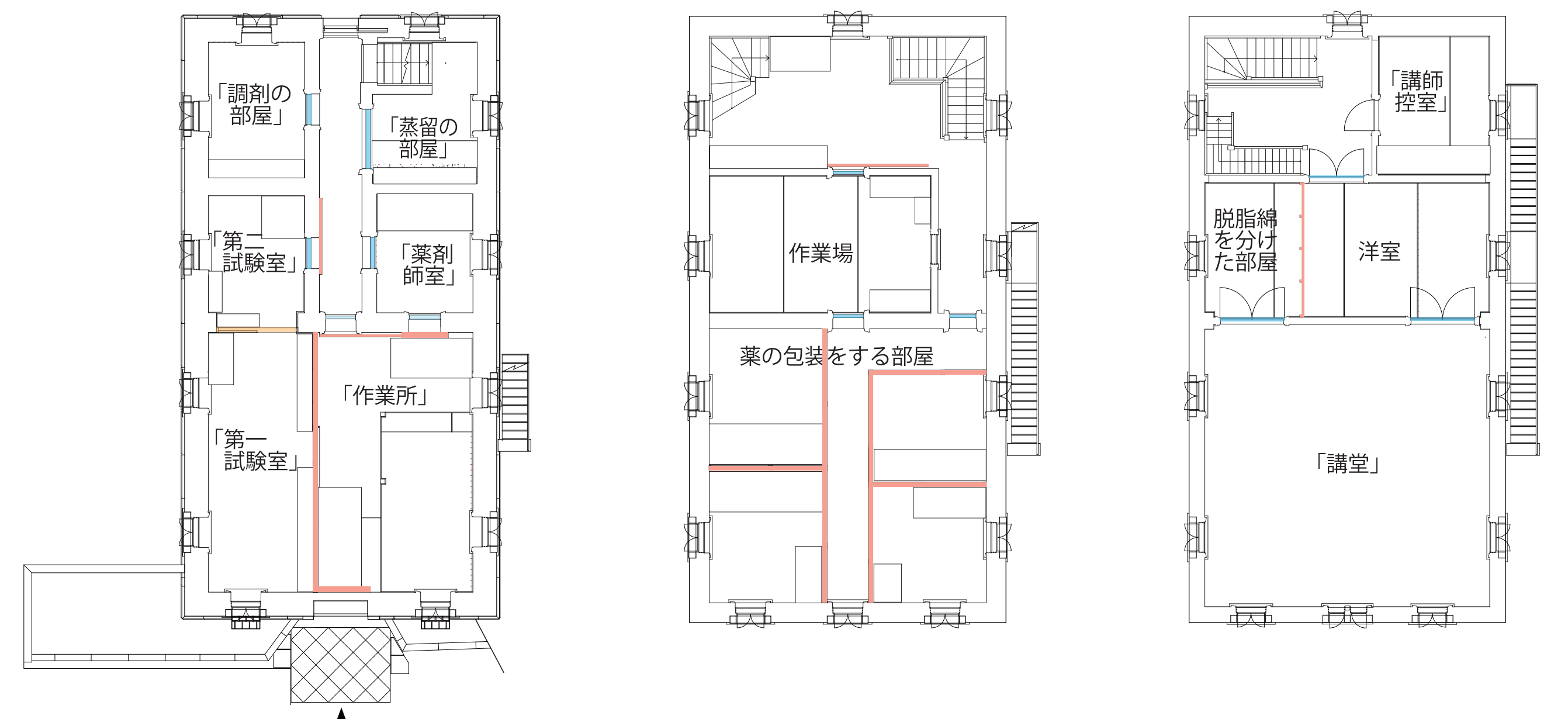
主な改変箇所 二階



主な改変箇所 三階



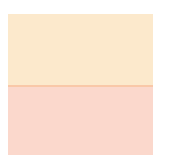
主な改変箇所 平面図



用途



子供食堂 … 平日夕方に子供食堂として使用。
近所の飲食店などから出来上がった物を仕入れる



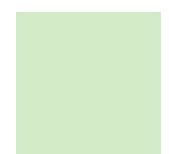
まちづくり協議会 … ・会議
・交流会
・普段着でお茶を楽しむ会
・伝統芸能コンサート



kenoh.com



kenoh.com



展示 … 作品展示をしたい方への貸し出しと、
今井家の歴史がわかる展示、企画展示など

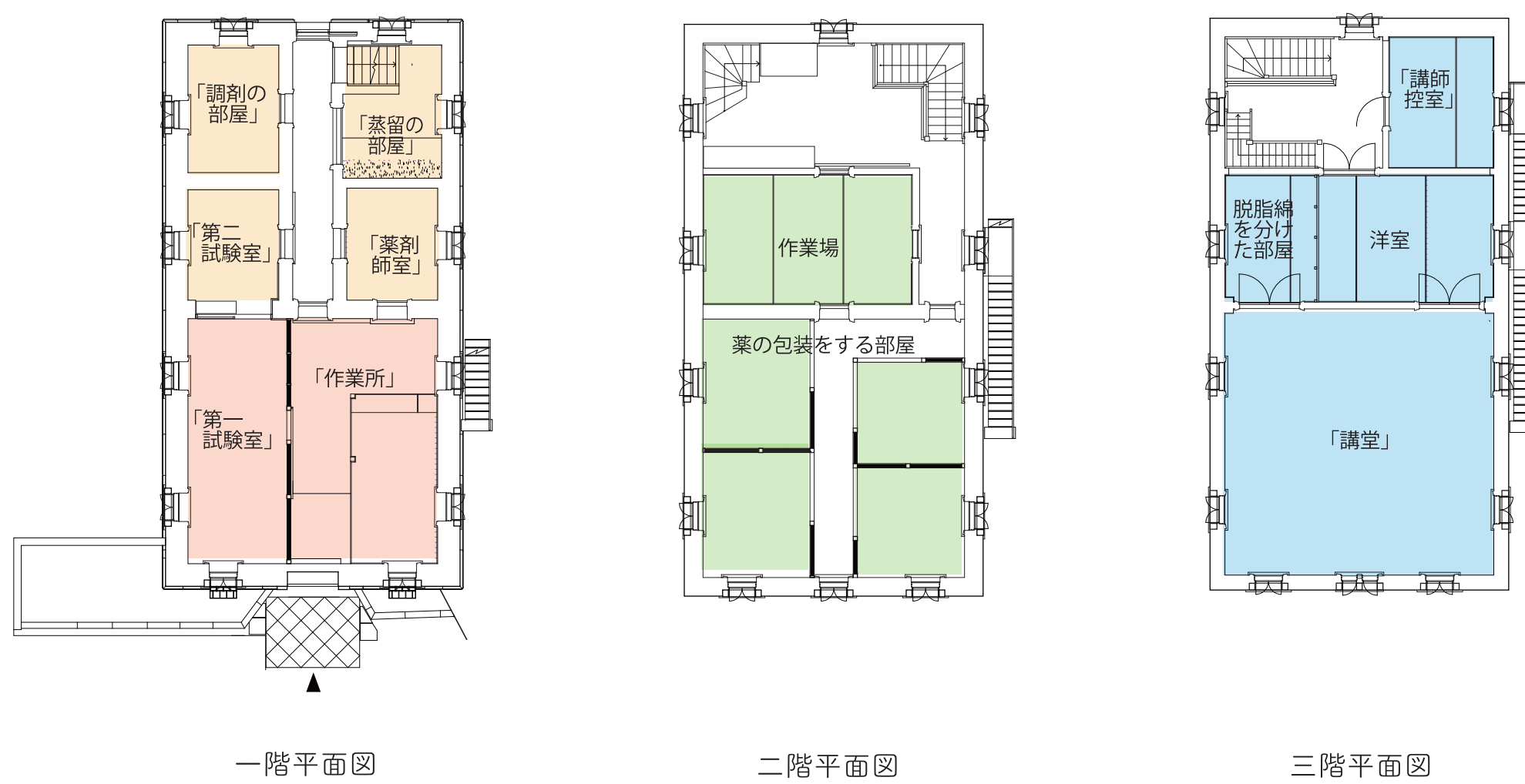


kayama.keizai.biz



集会・イベント … 会議や少人数でパーティーなど開きたい時、
ワークショップなどのイベント

現状（薬工場の状態）での活用



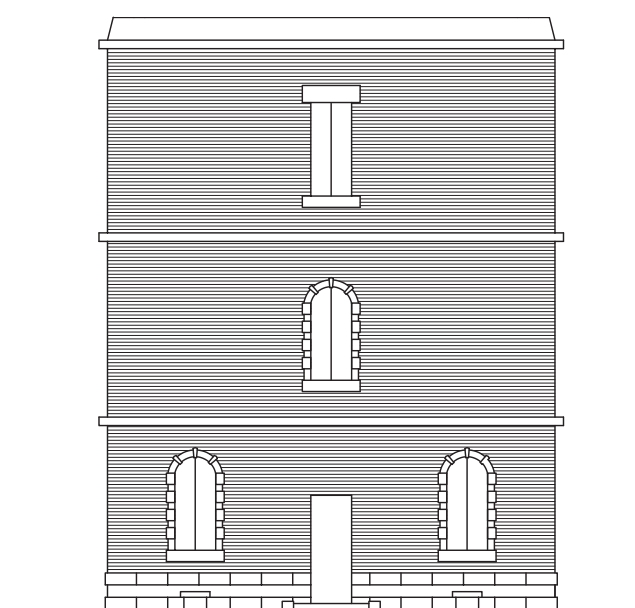
一階平面図

二階平面図

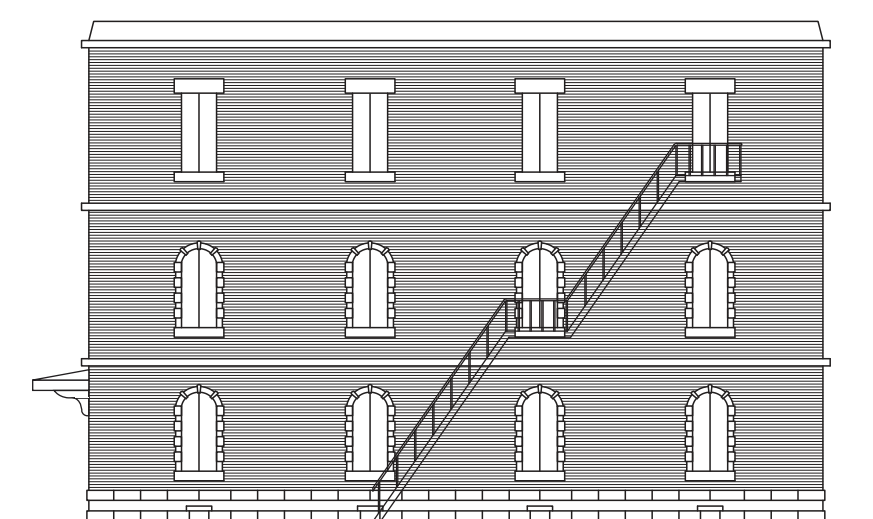
三階平面図



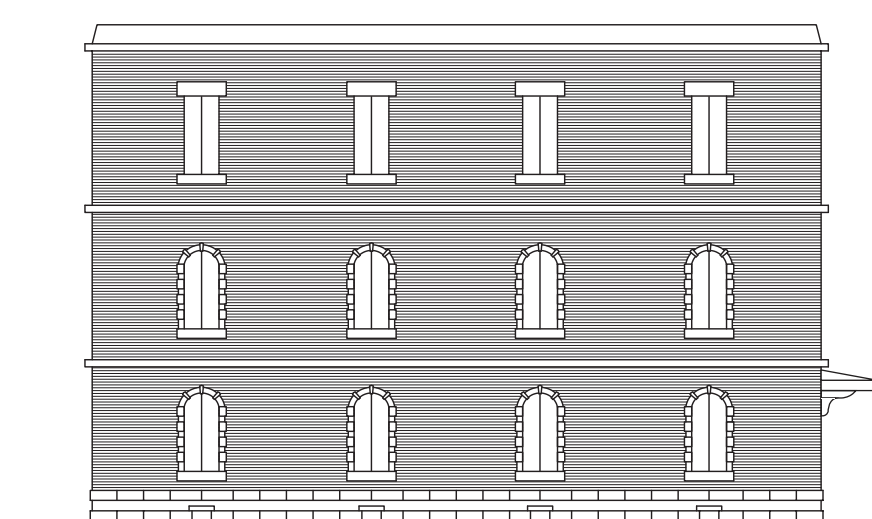
東面立面図



西面立面図



北面立面図

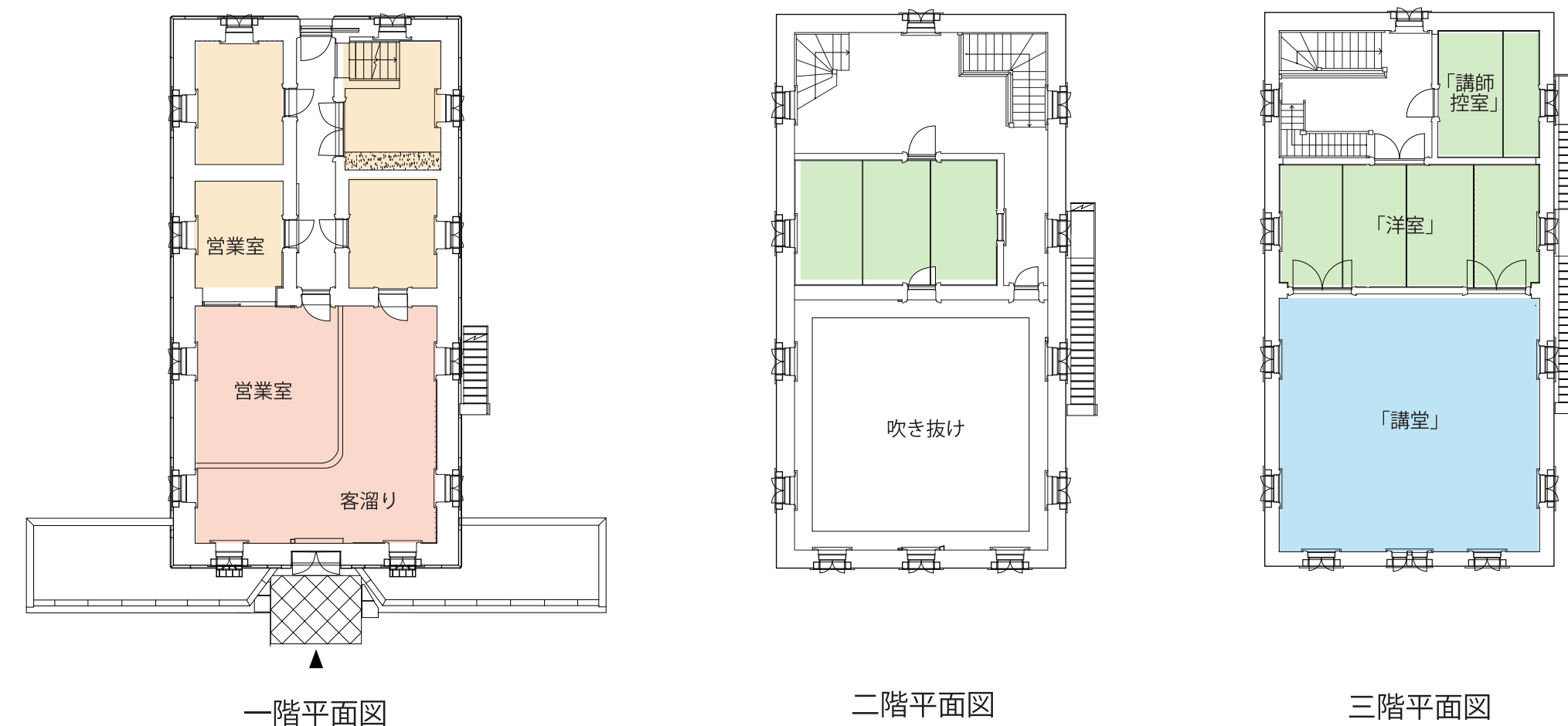


南面立面図

一階作業所使用イメージ



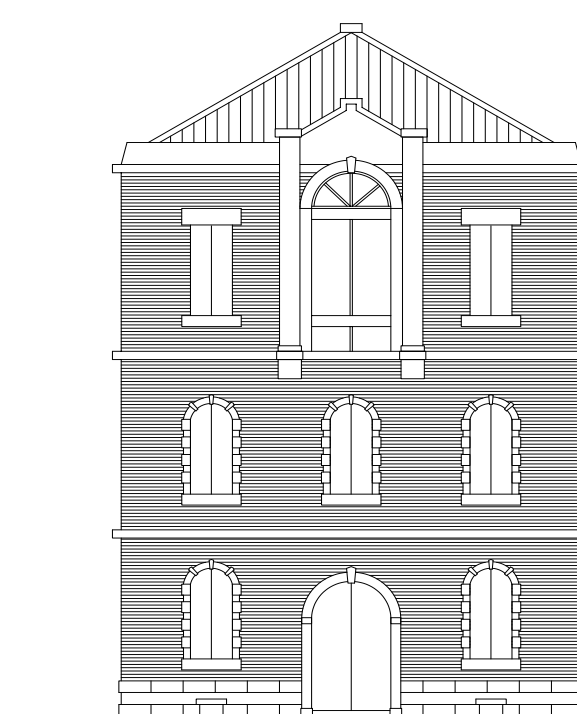
銀行店舗に復原した状態での活用



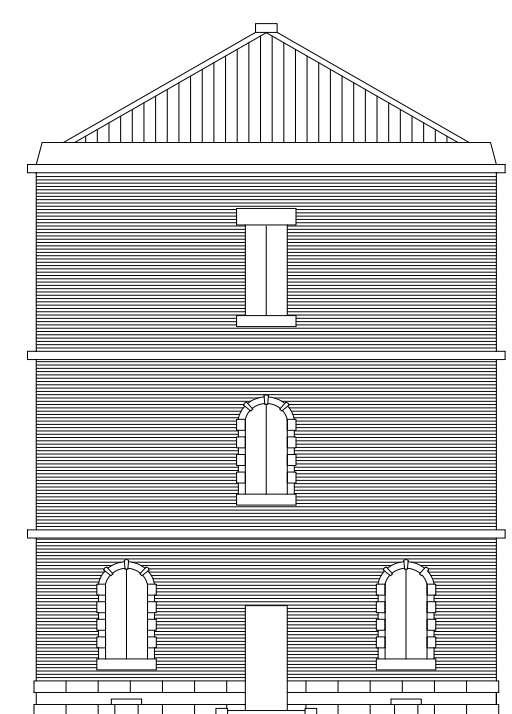
一階平面図

二階平面図

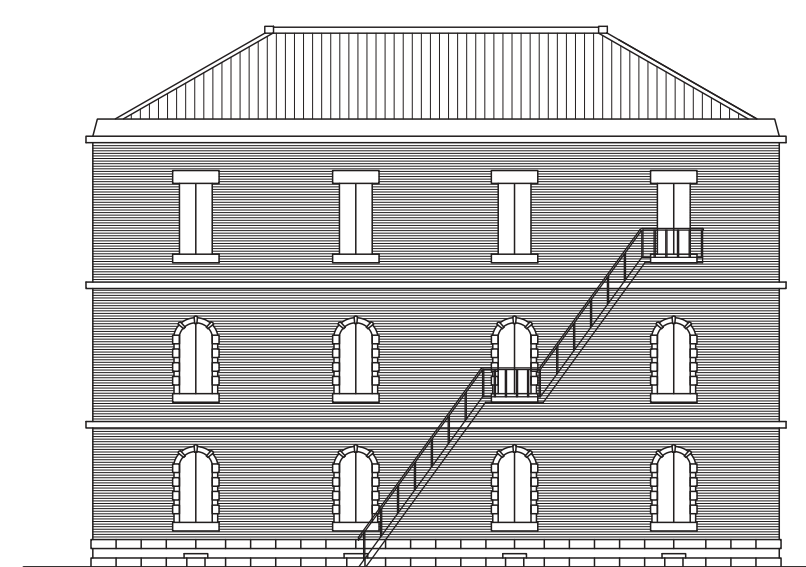
三階平面図



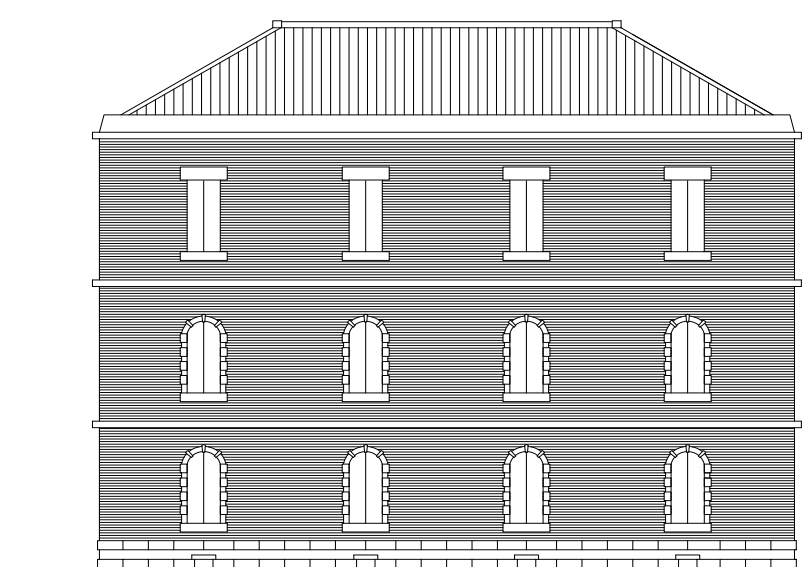
東面立面図



西面立面図

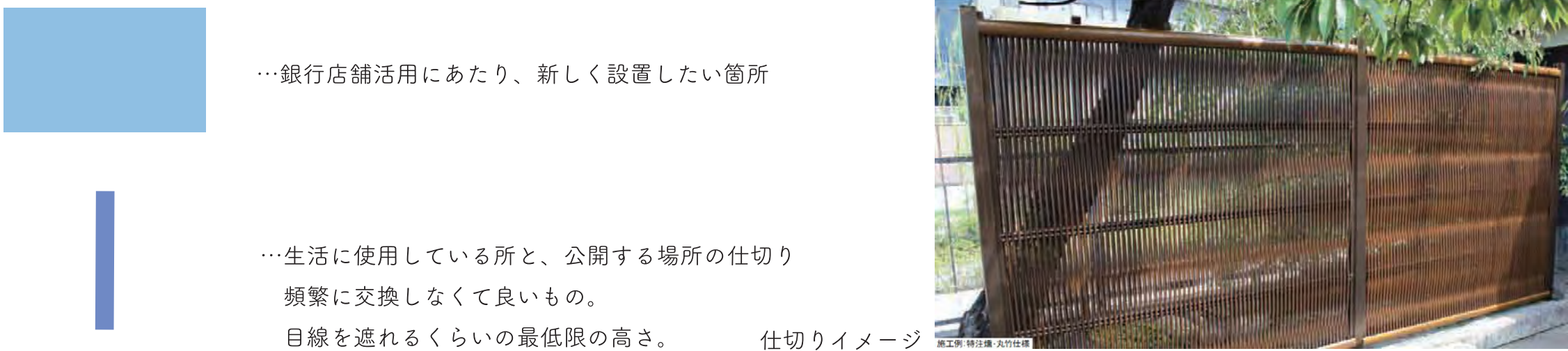
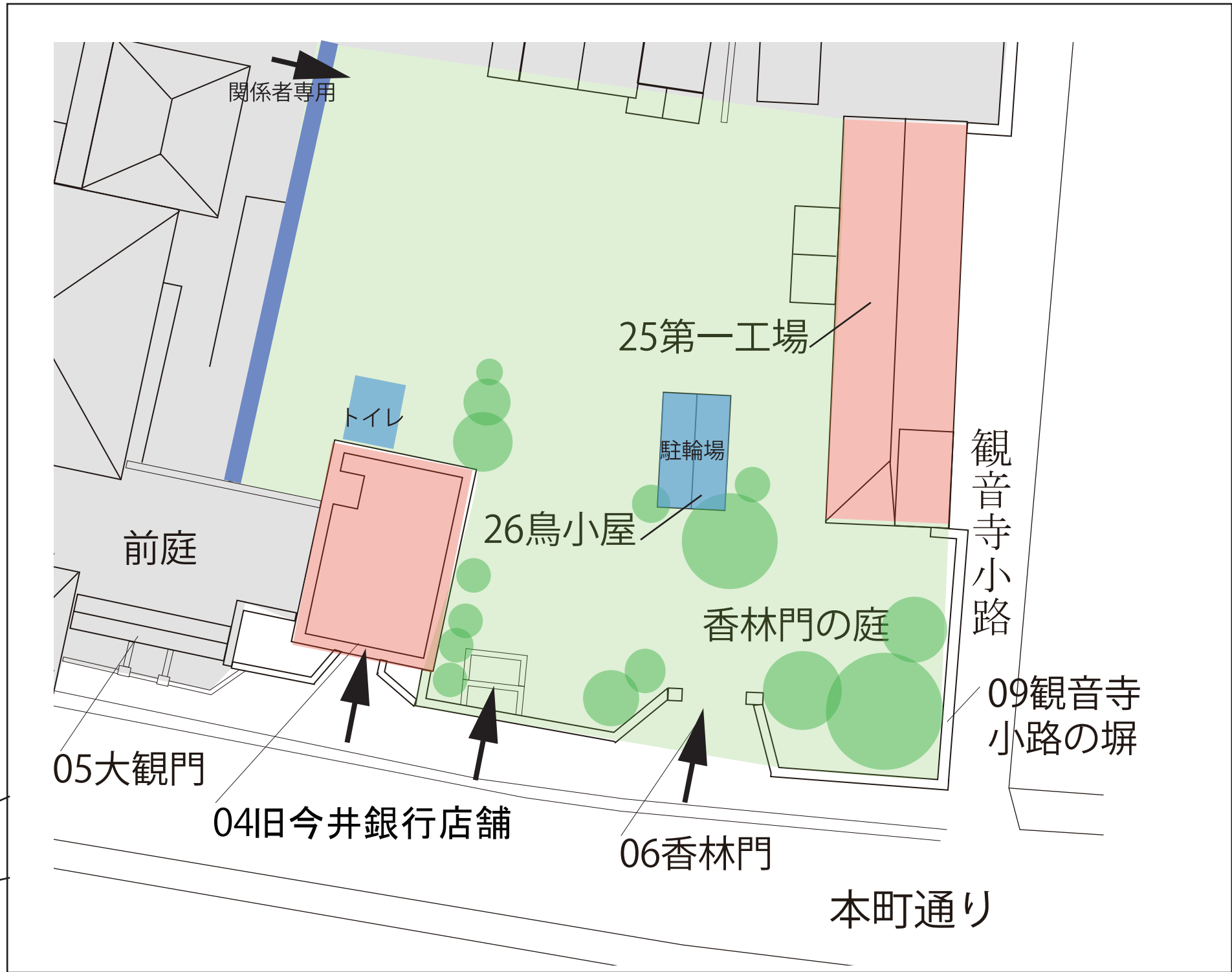
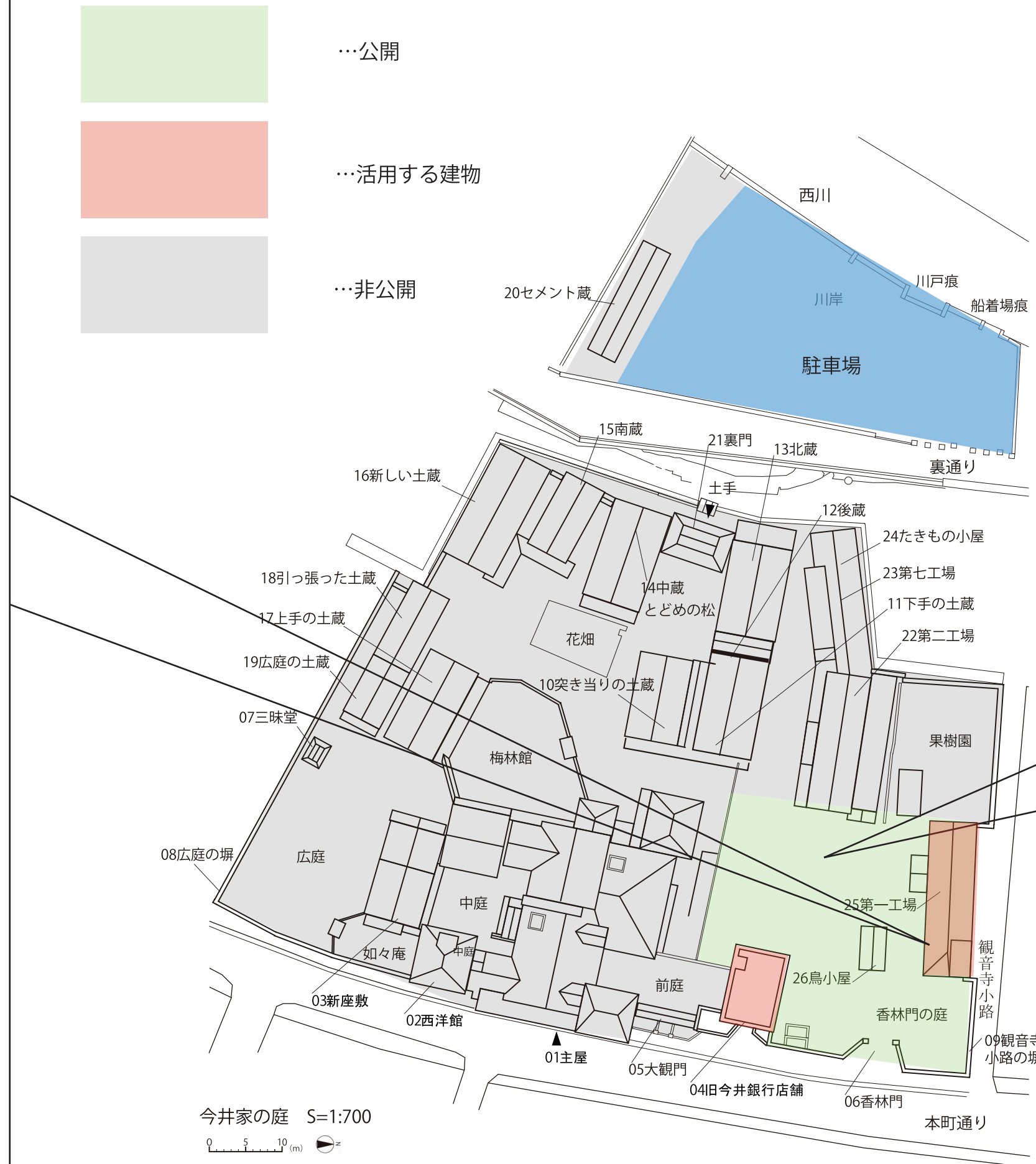


北面立面図



南面立面図





月次	2021 年												2022 年							2023 年															
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3											
基本計画	プレゼン・ワークショップ												催し計画・実証・確認												連携拡大										
実施項目	屋根防水工事 (令和 3 年 4 月工事予定)			街歩きイベント クラウドファンディング			HP、SNS 発信 活用検討ワークショップ			展示作品募集 地域の飲食店との連携				駐車場整備				改修ワークショップ																	
検討	行動体制の検討												まとめ																						
	歴史文化共有…			共有項目洗い出し 共有化シナジー算定			共有ブランド商品 ブランド力調査			行動計画・予算化				持続性のしくみ																					
	催し参加企画…			イベント企画構想 単純展示各種打診			月例文化催し 共産団体開拓			実証成果・効果確認				エリア連携強化（吉田駅周辺）																					
	観光効果告知…			街歩き作成			HP、SNS 発信			主体者の決定とフォロー				旧井銀行を考える会の設立																					
行事	吉田行事												吉田天満宮祭礼 吉田祭り 長寿祭り 町内対抗運動会												吉田天満宮祭礼 吉田祭り 長寿祭り 町内対抗運動会										
	吉田まちづくり協議会 イベント												普段着でお茶を楽しむ会												伝統芸能コンサート				普段着でお茶を楽しむ会				伝統芸能コンサート		

本研究では旧今井銀行の内部を創建当初に復元した状態もしくは現況での活用方法をそれぞれ検討し、保存活用計画の作成を行なった。

その結果、現在も個人所有であるということ、活用時の利便性という点から、復元ではなく現況での活用を進めるべきだと考える。

旧今井銀行は銀行、病院、薬工場として用途を変え、大正9年から昭和50年までの55年間地域に開かれ、近代化と戦後の混乱期を乗り越えた歴史が存在する。

このことから、旧今井銀行は有効に活用されている文化遺産であり、リビングヘリテージと言える。リビングヘリテージである建築の用途変更を伴う再生は、抗うことのできない時間の変化を許容したうえで、現在まで積み上げてきた歴史を全て受け止めていかに継承するかが重要である。

リビングヘリテージは日本語で「生きている遺産」と訳される。「生きている遺産」と聞いて想像されるのは地域の人々の暮らしの中で使われ続け、存在しているだけで意味のあるもののように思う。2019年度後期の環境計画・保存演習で訪れた世界遺産である白川郷は、今も住民が暮らしながら生活のために保存に携わり続けており、まさにリビングヘリテージである。

住民にとって意味が存在し続けているために保存されている白川郷に対して、現在の旧今井銀行は利用されていないために変容せず残っている状態である。それは、「生きている遺産」から無理に生かされている状態になってしまったように感じる。建物が受け身の状態ではなく、自らいきいきとさせるには、使用されなくなってから現在に至るまでの間、個人で維持・管理を行ってきたために地域の方々に全く知られていないという現状を改善しなければいけない。

本研究が「生きている遺産」に戻すための一つの材料となったのではないだろうか。

また、まちづくり団体や地域活性化のための活動を行なっている方々と連携し、吉田の魅力を増やして行きたい。

最後に、本研究に際してご指導をいただきました津村准教授、多くの意見をいただきました津村研究室の皆様、調査の際に手厚くご協力していただき、資料提供などくださった今井壽子様をはじめとした今井家の関係者の皆様に感謝致します。